

競 技 注 意 事 項

1. 本競技会は 2025 年日本陸上競技連盟競技規則と本大会申し合わせ事項により行う。

- (1) 審判長および競技役員はいつでもシューズチェックをすることができ競技者はその指示に従わなければならない。明らかに規則・規程違反のシューズや疑わしいシューズはチェックや回収の対象になることがある。競技後にシューズの違反が認められた場合は、審判長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合がある。

競技用靴・靴底の厚さに関する規定 (TR5.3) 【2024 年 11 月 1 日以降】

種 目	ソールの最大厚さ	その他の要件 / 注意
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mm スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mm スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	全跳躍種目で、競技用靴に関する規程 10.3 および 10.4 に記載のとおり、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない(前足の中心は、靴の内部の長さの 75%にある靴の中心点。踵の中心は、靴の長さの 12%にある靴の中心点)。
道路競技(競走・競歩)	40mm	
クロスカンтриー	20mm スパイクシューズ または 40mm ノンスパイクシューズ	競技者はスパイクシューズまたはノン・スパイクシューズ(ロードシューズなど)を履くことができる。スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは 20mm を超えてはならない。ノン・スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは 40mm を超えてはならない。
マウンテンレース トレイルレース	制限なし	

重要告知

競技用靴に関する規程 5.3 に従い、2024 年 11 月 1 日以降、靴底厚が上記の表に記載されている最大の厚さを超える既存靴は承認されなくなり、競技会では着用できなくなっている。

- (2) 招集所および競技エリア内でスマートフォン・携帯電話・タブレット等の通信機器や録画再生機器等を所持・使用することはできない。(TR.6.3.2)
- (3) 当該種目出場の競技者以外は、競技区域に立ち入ることができない。また、競技者は招集完了後競技終了まで、当該競技役員の許可なく競技区域から離脱してはならない。

2. 競技場への入場について

- (1) 正面スタンド1F および2F入口を開放する。
- (2) 入場証は不要とするが、各校顧問が入場者の把握に努めることとする。
- (3) 観戦は学校関係者のみとし、入場時や観戦中に各校との関係について確認をすることがある。

3. 競技場の使用について

- (1) 横断幕、ノボリの設置は南北の芝スタンド(土盛スタンド)後方およびバックスタンド後方のみとする。
- (2) テントの設置は、メインスタンド通路より上側(屋根のあるエリアをの除く)、または芝スタンド・バックスタンドに設置し、ロープ等が通路に掛らないようにすること。
- (3) 使用した場所は各学校で責任を持って清掃し、ゴミ等は必ず持ち帰ること(帰路では捨てない)。
- (4) トラック・フィールドおよび練習走路以外でのスパイクの着用は禁止する。
- (5) 更衣室は10名以内で更衣のみの利用とする。使用時間は1人10分以内。また、清潔に使用し私物を置かないこと。

競技開始前の競技場での練習について

競技会開始前の競技場（トラック）での練習は、周囲の動きに十分注意して行うこと。
ただし、練習可能時間内であっても競技会準備を優先とし、競技役員の指示に従うこと。
なお、競技場での練習は、9時00分までとする。
なお、安全のため日傘の使用を禁止する。

※いずれもジョグはレーン外で

○1・2レーンは、中・長距離ペース走用

○ホームストレート

3～9レーン＝直線からのスプリント練習

○バックストレート

3～6レーン＝リレー練習

※リレーバトン練習は1→2走・3→4走は第2コーナー、

2→3走は第3コーナーで行うこと。

各校で使用したリレーのマーク（テープ）は必ず取り除くこと。

5. 招集について

※招集所へのスマートフォン・携帯電話等の通信機器の持ち込みは禁止する。

※下記の時間帯に招集を完了できなかった場合は出場できない。

- (1) 招集場所は室内練習場とする。
- (2) 招集は競技開始時刻前の下記時刻で行う。

招集時間	トラック	跳 躍	投てき	棒高跳
開始時刻	30 分前	50 分前	60 分前	80 分前
完了時刻	20 分前	40 分前	50 分前	70 分前

- (3) 競技者は招集開始時刻には招集場所にて上半身競技服装になり、競技者係より点呼を受け、アスリートビブス・腰ナンバーカードおよびスパイクピンの確認を受けてそのまま待機し、招集完了時刻に競技役員の指示により移動すること。
- (4) 招集の代理は認めない。
- (5) リレー種目について
 - ・オーダー用紙は第1組の招集完了時刻の60分前までに競技者係へ提出すること。
 - ・リレーの招集は4人揃って受けること。ただし、他種目に出場している時は、**第1種目の招集開始時刻までに「多種目同時出場届」**を提出することで、代理を立てる必要はない。提出時には、ユニフォーム・アスリートビブス・スパイクの確認を受けること。
- (6) やむを得ず欠場する場合は、プログラムにある欠場届を競技者係へ提出すること。

6. 競技について

- (1) アスリートビブスは必ず胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技は胸部または背部だけでよい。トラック種目では、腰ナンバーカードをパンツの右側やや後方に付けること。4x400mリレーの第2・第3走者は、次走者の待機順を明確にするため、右側に腰ナンバーカードをつけること。
- (2) スパイクのピンは、本数は11本以内とし、9mm以下の全天候競技場用のものを使用すること。ただし、走高跳・（やり投）については12mm以下とする。また、スパイクの直径は先端近くで少なくとも長さの半分は4mm 四方の定規に適合するように作られていなければならない。
- (3) トラック競技でフィニッシュした競技者は本部前を通らず、競技場内のバックスタンド前を通してスタート地点に帰ること。
- (4) 競技エリア内に通信機器（携帯電話等）やビデオ撮影機器（タブレット等）を持ち込んではいならない。また、競技エリア内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。
- (5) フィールド種目について
 - ① トップ8を行う。
 - ② 投てき競技や棒高跳びの滑り止めについては、主催者は準備しないので、個人で持参すること。

③跳躍種目はセクションラインを設ける（但し、走幅跳・三段跳は、1回は全員計測）。

走高跳【男子】 1m50 【女子】 1m25 走幅跳【男子】 5m30 【女子】 4m20

④走幅跳は1組（メインスタンド前トラック側）、2組（メインスタンド側）で行う。

走高跳は、第一曲走路内側で1組（メインスタンド側）、2組（バックスタンド側）で行う。棒高跳は第二曲走路外側の北ピットで行う。

⑤バーの上げ方は下記のとおりとする。※走高跳・棒高跳ともに練習の高さは当日現地で決定する。

男 走高跳	現場判断 練 1m50 1m55 1m60 1m65 1m70 1m75 1m80 以降 3cm
女 走高跳	現場判断 練 1m25 1m30 1m35 1m40 1m45 1m50 以降 3cm
男 棒高跳	練:現場判断 / 2m82 3m02 3m22 3m42 3m62 3m82 4m02 以降 10cm
女 棒高跳	練:現場判断 / 2m02 以降 10cm

(6) フィールド競技の試技制限時間（単独種目）

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の競技は1分とする。

※※残っている競技者が2人以上の時に適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

7. 免責事項について

- 競技中に生じた事故については、応急処置の他一切の責任を負わない。
- 競技会に関わる全ての人の感染に対するいかなる責任も負わない。
- Jアラート警報が発令された場合や雷時には、競技を中断・中止する場合がある。その場合は参加料の返金はしない。

8. その他

- 顧問の受付がない学校の競技者の出場は認めない。
- プログラムは、配布しないので各校で印刷準備すること。
- 競技日程はプログラム記載のものを確認すること。HPにUPされているスタートリストの競技開始時間は参考なので、必ず競技日程を確認すること。
- 補助員は各校1～2名出ること。補助員分担は別頁に記載してある。
- 記録は、電光掲示板およびWEB ページで確認すること。（記録ボードは設置しない。）
- 撮影は許可証（正面玄関1F入口で発行）を必要とし、当該生徒のみの撮影とする。
- 声を出して応援するときは、前後の INTERVAL に配慮すること。
- 盗難が発生しているため貴重品等の持ち物の管理は各校・各自で注意すること。

以 上